

平成 29 年度香川県中山間地域等直接支払制度推進委員会 現 地 視 察 開 催 結 果

1 日 時

平成 29 年 11 月 2 日（木） 午前 11 時～午後 2 時

2 場 所

小菘協定（三木町小菘）
中山上協定（さぬき市多和）

3 出席者

- 委 員 角道弘文、木村晃子、松本タミ、横井伸一（敬称略）
- 協 定 小菘協定、中山上協定 代表者等
- 市 町 三木町産業振興課、さぬき市土地改良課（所轄協定訪問時に同席）
- 県 亀井農政水産部次長、井川農村整備課長、井上課長補佐、
吉原、岩井

4 開催（視察、検討）内容

- (1) 協定の活動概要説明
- (2) 農用地等視察
- (3) 質疑、意見交換等

5 配付資料

- (1) 小菘協定の概要、農用地地図
- (2) 中山上協定の概要、農用地地図

6 主な意見

○小菘協定

委員・営農組織で、部門制をとり、積極的な議論により連携を強化してがんばっている。今後は、男女とも意見を出していくことが重要なので、女性の役員登用を積極的に進めてほしい。

ここまで話し合いできる体制を整えているのであれば、全員が、生活や農用地など財産の活用についても話題にできる組織運営まで高めてもらいたい。一人暮らしの高齢者のサポートや、空き家の活用など、状態が進展する前に皆で意見を共有させることが重要と考える。

委員・皆で地域の課題を共有し、議論できる体制を整えていることは評価できる。高齢化の進展による担い手不足、参入者の住居確保については、多くの中山間地

域が抱える問題。集落内で話し合いを重ねた後、地域外に「〇〇で困っている」と情報発信してみると、話が進むのではないかと。

- 委員・地域外の参入者の受け入れでは、不特定多数の募集も一考であるが、あらかじめ集落の課題を整理し、集落の考え方に賛同する者を求めることが有効である。また、情報発信では、ホームページ掲載などのほか、男性、女性双方の既存の人脈を活用すると、話が伝わりやすいと考える。

○中山上協定

- 委員・高齢化が進展する中で、当制度を営農継続のモチベーションに代えて農業生産活動に取り組んでいることは評価できる。構成員が10名とあるが、実際は構成員の後継者家族などが地域外に住み、土日や農繁期に手伝っているとのこと。それならば、集落協定も現状に合わせて若い世代を加え、次世代の意見を取り入れやすく、かつ将来の集落営農ビジョンをともに描けるようなものに変えたらどうか。そうすることにより、現状維持に加え、体制整備単価活動や加算措置への取り組みの可能性が生まれ、農業生産活動の質の向上が図れるものと考ええる。
- 委員・少ない人数ながら、お互い助け合って集落機能を維持するとともに、今後の次世代への円滑な継承を見据え、ため池の改修、基盤整備、獣害対策（侵入防止柵の設置、管理）を進めていることは評価できる。農村らしい景観を維持している地域の将来の活性化のために、中山間地農業の魅力や、相反する畦畔の草刈りの大変さなど、ありのままを外部に発信するべきである。
- 委員・農業生産活動の継続と将来の円滑な継承のため、後継者家族はもとより、そのコミュニティ（幼稚園、小学校）など人脈を活用しての情報発信を行うことが有効ではないか。また、担い手の確保・育成する前段階で、後継者のほかに、集落住民と向き合って地域を理解し、「移住し、地域活動に貢献したい」と考えている参入者を募り受け入れる、という選択肢もあるものと考ええる。